



杉浦 敏 議員

## 弥富市福祉授産所の 制度の改善を

質 杉浦議員

総合福祉センター内の弥富市福祉授産所は、定員が19人になっていますが、17年度は2人、18年度は3人が定員オーバーで入所できなかったと聞いています。

市内の障害児を持つ親の話では、16年度はこの授産所が利用できたのに、17年度は利用できず非常にづらい思いをしたそうです。

希望者全員が利用できるように、制度を改善できませんか。

### 関係者の意見を聞き対応していく

答 北岡民生部長

弥富市福祉授産所は、厚生労働省が定めた「身体障害者小規模通所授産施設」として運営しており、常時利用者は20人未満となつて

います。

18年度は、弥富市福祉授産所に22人の入所申込みがありました。そのうち19人を受け入れ、十四山福祉授産所に余裕(定員9人・申込み4人)がありました。

ので、地理的に近い3人希望者全員に入所していただくことができました。

ご希望の件については、関係者のご意見をお聞きして、弥富市福祉授産所と十四山福祉授産所の有効活用の中で対応していきます。

### 人間ドック事業の改善を

質 杉浦議員

18年度の人間ドックでは、従来のAコース(海南病院・定員300人)、Bコース(市保健センター等・定

員820人)が廃止され、海南病院での人間ドック(定員1500人)に一本化されました。

さらに、受診料が一律2万4150円(補助金8000円、個人負担1万6150円)となり、特にBコースとの比較では、17年度(25000〜45000円)に比べて大きく値上がりし、受診を希望する住民にとっては大変な負担増となつていきます。

また、十四山地区では、17年度まで1万円の個人負担で受診できましたが、18年度は今までと同じ内容で受診する場合、追加オプションの別途料金が1万円以上も掛かり、個人負担は2万7000円を超えます。従来のBコースを復活させ、市の補助を増やすなどの対応が必要であると考えますが、いかがですか。

答 北岡民生部長

18年度の人間ドック事業については、どの医療機関でも受診できるように補助金制度に変更しました。

十四山地区の住民にとって受診料が高くなったという指摘ですが、40歳以上を対象にしている自治体は、海部地域では飛鳥村と弥富市だけです。ある程度の自己負担はご理解いただきたいと思えます。

Bコースは、検査の再検査率が高く再検査しても異常なしという結果が多いため逆に受診料が掛かるということと、住民から検査内容に選択性があり都合の良い日に受診したいという要望が多くなつてきたため見合わせることにしました。

Bコースに変わるものとしては、基本健康診査(定員4300人)にがん検診等のオプションを加えていただければ、Bコース(69歳以下4500円)より若干高い5300円程度で受診することができます。

### どこでも受診できるように変更した